



文化財通信くまもと



第35号
平成29年3月
熊本県
教育委員会



C2010 熊本県

◆平成28年熊本地震に伴う文化財復旧への対応◆

平成28年熊本地震は、ふたがわ・ひなぐ日奈久断層帯の活動による直下型地震でした。震源は浅く、激しい揺れのため熊本城や阿蘇神社などの重要文化財をはじめとする多くの建造物や石垣、石橋、古墳等が甚大な被害を受けました。

県内の指定文化財件数は、国指定文化財147件、県指定文化財383件、市町村指定文化財2,351件、国登録文化財163件であり、うち何らかの被害が生じた文化財は、国指定で28.6%、県指定15.1%、市町村指定8.4%、国登録33.7%にのぼります。



被災した阿蘇神社楼門

◆◆◆建造物◆◆◆

被害は前震後と本震後では、被害の状況に大きな違いがあり、特に建造物ではその状況が顕著でした。特別史跡熊本城跡では前震で石垣の顕著な孕みや建造物の壁剥落等が確認されたに過ぎませんが、本震後には石垣全体の約3割にあたる517面(約23,600m²)に被害が及びました。石垣の崩落に伴い宇土櫓続櫓、東十八間櫓、北十八間櫓が倒壊するなど合わせて13棟の重要文化財に被害が及んでいます。また、同じく国重要文化財である阿蘇神社楼門や、県指定重要文化財洋学校教師館(ジェーンズ邸)が全壊するなど甚大な被害が生じています。

◆◆◆史跡◆◆◆

史跡でも多くの被害が確認されています。なかでも装飾古墳である国史跡井寺古墳(嘉島町)、金尾古墳(熊本市北区)では墳丘に亀裂が生じ、石室石材の緩みや一部崩落をはじめ、石室内に土砂が流入するなどの被害が確認されています。

古墳の被害については、震災直後から、文化庁文化財調査官の視察を受け、年末には文化庁により、被災古墳等の復旧復興に関する委員会が立ち上げられ、同美術学芸課古墳壁画室、東京文化財研究所、奈良文化財研究所など文化財の修復の専門家を中心に委員会が設置されました。

装飾古墳の復旧は外気や雨水等による装飾文様への影響があるなど、劣化の要因が指摘されるなか対応が急がれます。

この復旧には、墳丘の調査、石室の解体等長期に長期に渡ることが予想されます。

また今回の震災で生じた文化財被害の復旧復興はその価値を損ねることのないような丁寧な対応が求められ、被災自治体への技術的・人的支援が重要であると考えられます。



井寺古墳

被災した（特に未指定の）文化財を救う2つの取り組み

ひさいぶんかざいきゅうえんじょう

熊本県被災文化財救援事業（文化財レスキュー事業）

文化財レスキュー事業は、熊本地震によって被災した美術工芸品などの動産文化財が瓦礫とともに廃棄される前に救出して応急処置を行い、施設で一時保管するという事業です。

【事業の概要】

○熊本県教育委員会からの支援要請（5月18日）を受け、文化庁が東京に「文化財等災害対策委員会」を設置、九州国立博物館に置かれた「九州救援対策本部」の支援のもと、熊本の「現地本部」が、被災した建物から動産文化財（美術工芸品、古文書、生活用具等）を救出し、応急措置を行い、所有者の生活再建を待つ間、施設で保管する事業です。（7月12日開始）

○対象は、将来の文化財指定のために県で行った調査リスト（約2,300件）から絞り込んだ美術工芸品等です。地震直後に梅雨に入りましたため、雨水の被害（傷みやカビ）が多数発生していました。

○今まで、善教寺（熊本市）など25件のレスキューが行われ、6,000点近い文化財が救出されました。



被災した神社からのレスキュー



屏風のクリーニングの様子

（江戸時代の屏風や鎌倉時代の古文書も今回救出され、現在クリーニングを行っています。）

ひさいぶんかざいけんぞうぶつふつきゅうしえん

はけん

熊本地震被災文化財建造物復旧支援事業（文化財ドクター派遣事業）

はけん

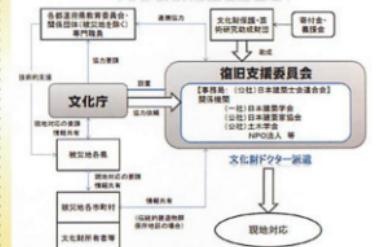
文化財ドクター派遣事業は、熊本地震によって被災した文化財建造物の被災状況の調査を実施するとともに、所有者又は管理団体からの要請に応じて、応急措置及び復旧に向けた技術的支援等を行うため、公益財団法人日本建築士会連合会等の協力を得て専門家を被災地に派遣する事業です。

【事業の概要】

○熊本県教育委員会からの支援要請（5月18日）を受けて文化庁が日本建築士会連合会へ委託し、文化財的価値を有する建造物（指定及び未指定であっても既往の調査等により一定の価値があると認められた建造物）の被災状況の調査及び応急措置・復旧のための技術的支援（被害を受けた建造物の調査、被害状況の確認、復旧に対するアドバイス）を行う事業です（6月25日開始）。

○対象は、指定・未指定に関わらず、一定の価値（日本建築学会のデータベースに記載等）を有する建造物等が中心になります。

熊本地震被災文化財建造物復旧支援事業 (文化財ドクターパ派遣事業)



調査名	1次調査（外観調査）棟数 (H 28年6月25日～H 28年8月12日)	2次調査（内部調査）要棟数 (H 28年10月下旬～H 29年2月末日)
合計	1687	435 ※

※被害が大きい建造物等を中心に435件を選定し2次調査中

レッツ タイムスリップ!

いにしえ

～古の熊本へ～

いせき はつくつちょうさ げんばこうかい

平成28年度 文化課「遺跡発掘調査現場公開」の開催

文化課では、夏休み期間に「夏休み遺跡発掘調査現場公開」、11月のくまもと教育の日に「秋の遺跡発掘調査現場公開」を例年実施しています。

この催しは、県民の皆さんに埋蔵文化財発掘調査について理解を深めていただき、郷土の歴史を学ぶ機会とするために発掘調査が行われている生の現場を一般公開しています。特に児童・生徒の皆さんに本物の土器や石器にふれる感動を味わっていただくために遺跡発掘に関わる体験学習を取り入れています。



北園上野古墳群での発掘体験

夏は、8月8日（月）～8月13日（土）に北園上野古墳群（水俣市ひばりヶ丘）、託麻弓削遺跡群5区（熊本市東区弓削町）、小池遺跡（益城町小池）の3か所で実施しました。秋は、11月20日（日）に北園上野古墳群、11月26日（土）に秋永遺跡（益城町小池秋永）の2か所で実施しました。

夏・秋のべ5現場合合わせて約300人の参加者がありました。

小学生の「発掘にはまってしまったので、またやりたい。」という感想に加え、「いろいろな説明や体験活動、出土物の見学とても感激しました。ふるさとの益城に元気が出る行事に参加させていただきありがとうございました。」などの保護者の感想もあり、参加した方々にとって充実した体験の機会になりました。

第9回熊本県文化財調査速報会 熊本ば！発掘する

多くの県民の皆様に、その年に発掘したものをわかりやすく、そして、昔の人たちが暮らした建物跡や使用した道具などが見つかったその瞬間の感動を伝えようと、文化課では文化財調査速報会を毎年開催しています。

今年度は、平成29年1月29日に実施し、100名を超える文化財ファンに参加していただきました。今回は、発掘調査の成果報告とともに、昨年4月に発生した熊本地震によって壊れた県内の文化財の被害状況や復旧に向けた取組みについても報告しました。

また、平成24年7月の熊本広域大水害による復興事業に伴う調査成果の展示、装飾古墳館・温故創生館の展示も行いました。

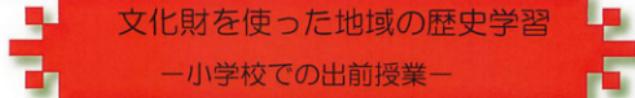
体験学習コーナーには、高床倉庫のペーパークラフト、布を織る体験など子どもが楽しめる企画を設けました。高床倉庫の一部である本物のネズミ返しを展示了したところ、大人も子供も実物の大きさにびっくりしていました。



「ペーパークラフト高床倉庫」「布を織ろう」コーナー

文化財を使った地域の歴史学習

一小学校での出前授業



平成 28 年 9 月 10 日（土）に、水俣市立水東小学校全校児童 53 名を対象に、発掘調査現場（北園上野古墳群）に招き、授業を実施しました。理解を深めてもらうために、低・中・高学年に分け、芦北・水俣地域等に見られる古墳時代の墓等の説明をしました。ここで発見された墓は遺体を埋葬するために地面を掘り込んで、板石等を積み上げて石の部屋をつくり、覆ったものです。体験発掘も実施し、子どもたちは、土器を見つけると目を輝かせしていました。

平成 28 年 11 月 28 日（月）には、天草市立久玉小学校の高学年児童 35 名を対象に県の史跡「久玉城跡」を見学し、戦国時代から近世初期の城づくりについての授業を実施しました。自然地形を利用した中世城の特徴を持つ箇所や近世初期に改築された施設（石垣やクランクした城の出入り口等）を見て、海や陸から攻めてくる敵に備えたお城づくりの工夫を実感していました。

子どもたちから、「地域の歴史をあらためて知ることができ、わたしたちが受け継がなければならない」という感想が出ました。これは、この授業を行う目的であり、授業を担当した私たちにとって大きな喜びでした。



父祖の暮らした地に築かれた墳墓

— 北園上野古墳群 —

北園上野古墳群は、水俣市陳内からひばりが丘に広がるシラス台地上に残る古墳時代の遺跡です。当地では、台地北側の山裾一帯を「北の園」、南側の薩摩街道が通る台地を「上野」と呼んでいたことから遺跡の名前が付けられています。今回の調査では、およそ 4 世紀～5 世紀頃の墓地、集落跡が見つかっています。墓地からは 25 基の地下式板石積石室墓のほか、2 基の土坑墓が検出されました。副葬品は、鉄鎌、鉄剣のほか、熊本県内では珍しい古墳時代の銅鏡が出土しています。

シラス台地は、水はけの良い柔らかな土が特徴です。現在は、さつまいもやごぼうを栽培していますが、古墳時代には掘りやすいこの台地に、お墓を築きました。深く掘った穴に、板状の石（安山岩）を積み、河原から持ち込んだ玉砂利を床面に敷き、武器とともに死者を葬りました。また、この墓の南側に古墳群よりや古い 13 基の堅穴建物が見つかっています。かつて父祖が暮らした台地を墓地として利用したと考えられます。



新たに発見された地下式板石積石室墓群



にほんぎいせきぐん 二本木遺跡群から出土した人骨

にほんぎいせきぐん 一二本木遺跡群一

二本木遺跡群は、古代（奈良・平安時代）、中世（鎌倉・室町時代）の遺構・遺物が出土し、古代の国府推定地である遺跡群です。今年度の調査区では熊本駅新幹線口から北東側の調査区で中世の人骨が出土しました。

墓坑の形状は隅丸方形です。腰骨がやや開いていますが右を下にした姿勢（側臥）で、頭の位置は北東、西を向いて、腕、脚ともに強く曲げ埋葬されています。供献遺物はありませんでした。性別は男性、身長は150cm台です。

特徴としては、頭は、顔面が小さく顔の幅も狭いのですが、えらが張つていて噛む筋肉が発達していたことがうかがえます。

体は上腕骨、大腿骨、脛骨が太く、その太さは縄文早期人なみです。

以上のことから、埋葬された方は、埋葬してはもらえるが、供献遺物は持てない程度の社会的地位を確保していた人物で、成長期には腕と脚を日常的に酷使する生活を送っていたものと推測されます。



出土した人骨

いしぐみろ 縄文時代の石組炉

たくまゆげいせきぐん 一託麻弓削遺跡群5区一

託麻弓削遺跡群は、熊本市東区弓削町、白川中流域左岸に広がる遺跡です。平成24年に発生した熊本広域大水害の復興事業に伴い、発掘調査を行ってきました。熊本県ではこれまでに遺跡内の5つの調査区で発掘調査を行っています。今回は、平成27年2月から調査が始まり、平成28年8月末に調査を終えた調査5区の石組炉について報告します。

今年度、調査5区からは、熊本県内では比較的珍しい縄文時代後期のものと推定される石組炉が4基見つかりました。

石組炉はいずれも床に石を敷き詰めるものです。4基のうち3基は、敷石を囲う大きな石が花びらのように配置されているものでした。石を取り外していくと、再び下から石組みが見つかったものもあります。元の石組みを再利用しながら、少なくとも一回は石組炉を作り直していることがわかりました。

いずれも火を焚いた痕跡はありましたか、何度も何度も繰り返し火を焚いたような痕は見つかりませんでした。もしかしたら、何か特別な時だけ火を焚いた場所なのかもしれません。



石組炉

大きな溝に隠された謎

あきながいせき
—秋永遺跡—

秋永遺跡は、益城町小池にある遺跡です。県道 232 号線のバイパス工事に伴い、埋蔵文化財の発掘調査を行っています。調査面積は約 1,800 m²で、2 つの調査区に分けて調査中です（平成 29 年 2 月 1 日現在）。

現在、2 区を調査中ですが、矢じりや石斧などの石器や青磁、須恵器、瓦質の火鉢など幅広い時代の遺物が出土しています。また、溝を 9 条検出し、特に南北に延びる溝は、幅約 2 m、深さ約 90 cm の台形をしており、人為的に作られたものと推測されます。いつ、何のために掘られた溝なのか現段階では分かっていませんが、今後、調査を進める中で解明していきたいと思っています。



秋永遺跡発掘調査

今も昔も田園風景…？

じょうりあと
—一条里跡—

一条里跡は、八代郡水川町有佐から中島にかけて広がる遺跡です。

氷川左岸に位置するこの遺跡では、氷川機動センター（仮称）整備事業に伴って発掘調査を実施しました。これまで氷川町による発掘調査によって、主に古墳時代の人々が生活していたことが分かっています。

今回の発掘調査では、主に奈良・平安時代の溝跡、土坑のような当時の生活をうかがわせのが見つかりました。そして堆積した地層からこれらが使われなくなった後に水田が営まれていたと推測されます。

調査した場所の周辺は、水田に囲まれた田園風景が広がっていますが、こうした風景は、大昔からあまり変わっていないのかもしれません。



一条里跡発掘現場

白川流域の弥生時代・古代の解明に弾み

しんなべいせき
—新南部遺跡—

新南部遺跡は白川左岸に位置し、今回の調査区は、台地の先端の面積 600 m²で、弓状の調査区になりました。この調査は、白川大水害の河川改修工事に伴うもので、この工事により河川幅を広げ灾害を防ぐためのものです。

調査の結果、弥生時代中期から後期の遺物が出土しました。また古代（8 世紀）の住居などが検出されました。河川突出部の先端だけの調査でしたが、遺跡は調査の成果や地形など、これまでの情報から突出部全体に広がると思われ、白川流域の弥生時代・古代の解明に弾みとなりました。



調査区東側より

県指定重要文化財（彫刻）

もくぞうしようかんのんぼさつりゅうぞう

木造聖観音菩薩立像及び木造四天王立像

もくぞうしてんのうりゅうぞう

所在地：球磨郡多良木町奥野字屋尻 1309-4

所有者：中山観音保存会

指定日：平成28年4月22日

球磨郡にかつて存在した中山寺ゆかりの仏像で、現在は「相良三十三観音」28番札所の中山観音堂に、聖観音菩薩像をご本尊に、四天王像がその護衛として、まつられています。

聖観音菩薩立像は高さ約 150 cm。1本の木を丸彫りした「一本造」という技法で造られた仏像です。髪を束ねた大きな髪や腰高な体型、肩を後ろに引いた姿勢から、1,100 年位前の平安時代前期の作とされています。県内の木造の仏像では最古のもので、九州でも最古級の部類に属するものです。

四天王立像は、4体とも一本造で、動きを抑えた重みのある体型や、本来は悪魔を威嚇する四天王像ながら、その表情に穏やかさもみられることから、平安時代後期、ご本尊よりは約 300 年後のものです。

いずれも、本県の仏像彫刻を代表する貴重な文化財です。



登録有形文化財

国の登録有形文化財は、県内に 161 件あり、今回（昨年の 2 月～11 月）3 ケ所 11 件（10 棟 1 基）が登録されました。

新麹屋柏原家住宅主屋、門及び塀、離れの3棟

登録日：平成 28 年 2 月 25 日

所在地：熊本県宇城市小川町小川字上刈萱 58

新麹屋は、砂川と商店街を通る薩摩街道により古くから地域経済の中心を担い、江戸時代末期から大正時代にかけて広範にわたり商いを行っていた小川町を代表する商家の一つです。主屋は明治 16 年（1883）の建物で、街道沿いに位置し、2 階建、入母屋造妻入となっています。門及び塀は大正期の建物で、門は一間薬医門、切妻造棟瓦葺で、塀は人造石洗出しの基礎上に建ち、真壁塗喰塗で欄間を透かしています。離れは大正 11 年（1922）の建物で、主屋背面の渡り廊下の先に位置します。ほぼ当時の姿を残し、旧宿場町の町並みを今に伝える貴重な建築物です。



主屋



離れ

旧御船区裁判所庁舎、門柱及び塀の1棟1基

登録年月日：平成 28 年 8 月 1 日

所在地：熊本県上益城郡御船町大字御船字町園又 851-7-2

御船区裁判所は、明治 23 年（1890）に開庁され、明治 28 年に当地に現在の建築物が新築されました。昭和 22（1947）年に御船簡易裁判所となり、昭和 44（1969）年に熊本地方裁判所から御船町に所有権が移され、裁判所としての機能を終え、現在に至っています。内部は当時の部屋の区割りが残っており、特に法廷部分は、法廷と検事調所の床面が低くなっている部分等、当時の裁判所の名残を多くとどめています。明治期の裁判所の雰囲気が伝わる建物であります。敷地正面側を画する門柱は高さ 2.4 メートルで、塀は切石 6 段積とし、頂部に笠石を乗せています。現在は御船町公民館御船分館として、地元住民によって管理・活用され、地域のコミュニティの場としても大きな役割を果たしています。



庁舎

吉岡家住宅主屋、江戸蔵、明治蔵、阿弥陀堂、薬医門、塀の6棟

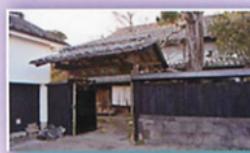
登録年月日：平成 28 年 11 月 29 日

所在地：山鹿市鹿本町来民 2034

吉岡家住宅は、代々 農家（幕末には勤皇郷士）で明治期に養蚕業に力を入れた吉岡家が明治期前半に建造した家屋等です。主屋は木造一部 2 階建て、入母屋造で越屋根を持っています。江戸蔵は 2 階建て、明治 8 年（1875）に熊本市京町から移築したと伝えるもので、桁行 3 間（約 5.9 メートル）梁間 2 間（約 4 メートル）あります。明治蔵は平屋建て、明治 22 年に近隣の七城町内（現、菊池市）の二ヶ所から蔵を購入し、その部材を用いて建てたとされています。その他 3 棟を含め計 6 棟が明治期の地域の景観を今に伝えている貴重な建造物です。現在は、「来文文庫」として平成 16 年から公開中（要事前予約）です。



主屋



薬医門及び塀

そうしょくこふん こだい たいけん 装飾古墳と古代を体験する —装飾古墳館の紹介—

そうしょくこふんかん
装飾古墳館は、平成4年4月15日に開館した古代体験教室等を実施する“県民参加型”の博物館です。今年度、装飾古墳館が取り組んだ活動について御紹介します。

【教育普及－古代を見る－】

そうしょくこふんかん
装飾古墳館では、年間20回の定期体験や体験教室イベント「古墳館へ5・5・Go！」等を実施しています。赤米体験教室は、山鹿市内の小・中学校、高校の協力のもと、一般参加者とともに、古代米の一種である赤米を田植えから収穫、調理まで一貫して実施しました。

【News －装飾古墳とデザイナー－】

装飾古墳館では、熊本のデザイナー集団、「熊本デザインプロジェクト」と共催し、平成28年2月に東京 IID 世田谷ものづくり学校で開催した作品展を装飾古墳館、くまもと県民交流会館パレア、伝統工芸館で開催しました。

東京での展示作品『装飾古墳とデザイン』をご紹介するとともに、装飾古墳の模様である“まる・さんかく・しかく一カタチがつたえる古代の想いー”をテーマに美しいカタチに込められた古代の人々の想いを紹介しました。

【調査研究－装飾古墳を見る－】

装飾古墳館では、装飾古墳の公開に適した保存上の観点から、より影響の少ない時期を選定するため、データ収集を目的とした調査を実施しており、その結果をもとに、熊本県内の装飾古墳を対象に年2回の一斉公開を行っています。平成28年度は、秋は10月30日、11月27日に県内8カ所の装飾古墳で開催しました。春の一斉公開は3月25日に開催しました。

【企画展示－博物館を見る－】

装飾古墳館では、今年度は5回の企画展を実施しました。企画展V「体験教室へようこそ～古代のヒトの技術にチャレンジ～」展は、平成29年5月14日まで開催しています。

【集中講座】

本年は、京都帝国大学による「肥後に於ける装飾ある古墳及横穴」の調査から数えて、100年目にあたる節目の年でした。装飾古墳館では、そのことを記念して、京都帝國大學装飾古墳総合調査100年記念“『肥後に於ける装飾ある古墳及横穴』を辿って”全13話を開講しました。



【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館

〒 861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 Tel 0968 (36) 2151

装飾古墳館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp>

装飾古墳館フェイスブック <http://www.facebook.com/kofunkan>

きくちじょうおんこそうせいかん 鞠智城温故創生館の取り組み

史跡鞠智城跡は、今から 1350 年ほど前につくられた古代山城です。昭和 42 年から 32 回の発掘調査を実施し、貴重な遺構や遺物がたくさん発見されました。

温故創生館は、出土した遺物やパネル、映像をつかって鞠智城を紹介する資料館です。

鞠智城跡の特別史跡の指定を目指して、学術的な価値を高めるための調査・研究を行うとともに、県民のみなさんの歴史学習の場やいこいの場とするための整備を進めています。

鞠智城跡の活用

鞠智城では様々なイベントを実施しています。

毎年ゴールデンウィークには、「みんなおいでよ！鞠智城」というイベントを開催しています。しかし、今年度は熊本地震の影響により、毎年恒例の八角形鼓楼へ登るイベントは中止し、イベント自体の規模も縮小しました。そうしたなかでも、新たに実施した弓矢体験は、子どもも大人も夢中になって矢を放ち、矢を的に当てることの難しさを楽しみながら学んでいました。

夏休みには、「こども体験フェスタ」を開催し、割り箸を使った弓矢づくりや土器の重さ当てクイズなどを実施しました。特に割り箸を使った弓矢づくりは子どもたちに大好評で、自分で作成した弓矢を使って的当てゲームを楽しんでいました。

秋には、地元の街おこし団体と連携して「観月会」を開催しました。あいにくの曇り空で十五夜のお月様は見えませんでしたが、地元の方々のみならず、熊本市内などからも多くの方にお越しいただき、夜の鞠智城で幻想的な琴の音色などに酔いしました。

このほか、「鞠智城フォトコンテスト」も開催しています。毎年、たくさんの方からすばらしい作品が応募されます。その中には、小学生からの応募もあり、子どもならではの視点でとらえた構図など、非常におもしろい作品がたくさんあります。

鞠智城跡に関するイベントなどの最新情報は、ホームページや Facebook ページで随時更新していますので、そちらもご覧ください。

【お問い合わせ】

熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒 861-0425 熊本県山鹿市鹿町米原 443-1 Tel 0968(48)3178

鞠智城温故創生館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

鞠智城フェイスブックページ <http://www.facebook.com/kumamoto.kikuchijo>.

さきもりころう隊オフィシャルサイト <http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/>



ころう君

熊本県文化財資料室「展示・体験教室」



【がんばって磨こう勾玉】

文化財資料室でも地震の影響は大きかったのですが、こういう時だからこそ楽しい体験学習をと、学校の夏休みと冬休み期間中に体験教室を実施しました。

夏休みには、『勾玉作り体験教室』を行い、冬休みには、装飾古墳館の協力を得て鏡の鋳物作りに挑戦しました。

体験教室の当日には発掘調査で出土した実物の勾玉や青銅鏡を展示し見てもらいました。勾玉でも鏡でも磨きに一生懸命になっている親子の姿がありました。

体験教室後には、「石が削れるのが不思議だった。磨くのが楽しかった。」、「大人も一緒に楽しめました。」や「鏡のもうつ意味や作り方など丁寧に教えていただき勉強になりました。機会があればまた是非参加したい。」という感想が聞かれ好評でした。



【鏡の鋳型に合金を流しこみます。慎重に！】

完成した鏡



裏



表

熊本県文化財資料室

体験教室に遊びにきてね！



【熊本地震で割れた展示室のガラス】

文化財資料室でも熊本地震の影響により、多くの遺物が被災しました。展示棟にある展示室の厚いガラスも割れてしまいました。現在、展示棟の復旧を行っています。平成29年度には、埋蔵文化財発掘調査で出土した遺物を展示する予定です。

展示棟内にある体験学習室は使用できる状況でしたので、平成28年度も「夏休み勾玉作り」や「冬休み鏡作り」の体験教室を行いました。

《熊本県文化財資料室》

〒861-4215 熊本市南区城南町沈目1667番地
Tel : 0964-28-4933 Fax : 0964-28-7798

平成28年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構・遺物	調査期間
1	きたぞのうえのこふんぐん 北園上野古墳群	みなまちじんない 水俣市陳内・ひばりヶ 丘	こふん 古墳、中世	ちかしきいせいづみせきしつ 地下式板石積石室墓、鐵劍、銅鏡、鐵劍 屋敷墓、庇付き掘立柱建物跡	H28.4～H29.3
2	じょうりあと 条里跡	わがわまちありさ 八代郡水川町有佐 中島	こじだい 古代	水田	H28.5～H28.8
3	たくまゆげいせきぐん 託麻弓削遺跡群 (5区)	ゆげまち 熊本市東区弓削町	じょうもん 縄文～古代	いしじめら、じくもんじき 石組炉、縄文土器、石器	H28.6～H28.8
4	しんなべいせき 新南部遺跡	しんなべ 熊本市東区新南部	わよい 弥生	やよいどき、ほじき 弥生土器、土師器、カマド支柱	H28.8～H28.10
5	にほんぎいせきぐん 二本木遺跡群	かずが 熊本市西区春日	こじだい 古代	ほじき、すえき 土師器、須恵器、磁器	H28.5～H29.3
6	おいけいせき 小池遺跡 あきながいせき 秋永遺跡	ましまちおいけ 上益城郡益城町小池	こふん 古墳～近世	みぞじょうこう、どこう 溝状遺構、土坑、土師器、須恵器、陶磁器	H28.6～H29.2



考古資料学習キット



県文化課では、小・中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を作成し、貸出しをしています。



【問合せ先】

熊本県教育庁教育総務局文化課

調査係 096-333-2706・2707

熊本県文化財資料室 0964-28-4933

文化財通信くもと第35号 平成29年3月31日

編集・発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本県熊本中央区水前寺

6丁目18番1号

印刷：有限会社あすなろ印刷

発行者：熊本県教育委員会

所 属：熊本県教育庁教育総務局文化課

発行年度：平成28年度